

SAMPLE



N-BLOOD

NISMO Motorsports
Communication Magazine



N-BLOOD

NISMO Motorsports Communication Magazine
2022 / April

No. **94**

nismo

Produced by Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd.

新たなる時代の旗手として

力強さを感じさせたNISSAN GT-R NISMO GT500のデザインとは対照的に
ともすれば華奢にも見える、優美な佇まいのNissan Z GT500
しかしその内には熱く燃えたぎるエンジニアたちの魂が息づいている
岡山、富士、鈴鹿、スポーツランドSUGO、オートボリス、もてぎ——
舞台が目まぐるしく変わろうとも、主役の座は、渡さない
4台のZ GT500が見せるドラマから、目が離せない

SAMPLE

- 4 **CEO INTERVIEW**
片桐隆夫
日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社設立にあたり
- 6 **2022 MOTORSPORTS PROGRAMS**
2022年モータースポーツ活動概要を発表
フォーミュラEとSUPER GTを中心にワクワクを届ける活動を
- 10 **NISSAN Z GT500**
Nissan Z GT500 ついにデビュー
多角的な視点でZの強みを探る
シーズン展望……タイトル奪還を目指して
マシンコンセプト……Zの特性を引き出すマシンに
シャシー……どのコースでも強いクルマに
エンジン……全方向的に性能向上
エアロダイナミクス……Zの素性を活かす空力デザイン
ヒストリー……Zの歩みをたどる
- 24 **SUPER GT SPECIAL INTERVIEW**
ベルトラン・バゲット
新天地を目指す、悲願の王座
- 26 **FIA FORMULA E WORLD CHAMPIONSHIP**
ブエミとギンターが挑む新シーズン
メキシコシティでダブルポイントフィニッシュ
- 28 **MOTORSPORTS**
Paddock TOPICS
- 30 **LEGEND SHOP REPORT**
日産／ニスモ レジェンドが興したショップを訪れて
Central20
- 34 **NISMO DRIVING ACADEMY**
愛車を存分に楽しむための
テクニックを学ぶ
- 36 **NISMO PERFORMANCE CENTER**
お客様とのつながりを築く場所
- 38 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
CITIZEN / NEGLONI / NISSAN Z 50年の軌跡と未来
- 39 **PRESENT**
読者プレゼント



CEO INTERVIEW

片桐隆夫

「これまで以上に愛される存在として」 日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社設立にあたり

2022年4月1日、ニッサン・モータースポーツ・インターナショナル株式会社と株式会社オーテックジャパンが統合され、新しい会社が誕生した
新会社の代表取締役社長兼最高経営責任者を務める片桐隆夫が、その思いを語る

それぞれの強みを活かした ポジティブな取り組み

Club NISMO 会員の皆様、こんにちは。すでに発表させていただいたとおり、私どもニスモは2022年4月1日より、社名を『日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社』に変更しまし

た。NISMO、ATUECHというそれぞれの会社のブランドがどうなるのか、ご心配をいただいた方も多いと思いますが、それぞれのブランドをより強化するための統合であることを、あらためてお伝えしたいと思います。

我々はNISMOブランドのポジショニングも、AUTECHブランドのポジショニングも変えるつ

もりはありません。基本的にこれらを『進化』させていきたいと考えています。横浜市鶴見区のニスモ本社は、今後もニスモ事業所という名称で残りますし、NISMOのロゴやショールーム、大森ファクトリーについても、これまで同様です。

統合の狙いは、言わば『よりよいクルマづくり』と、『よりお客様に喜んでもらうため』です。両

社の良い部分を総合的に活用していくという考え方です。大きい枠組みで言うと、モータースポーツとそれに付随する活動を全面的に担ってきたニスモと、NISMOロードカーを含めたモノづくりのベースであるオーテック、両社のノウハウと経験を結集し、これまでに行ってきたようなコラボレーションをさらに深めて、お客様に楽しさをお届けしたいと思っています。

NISMOブランドという目線で申し上げますと、今後さらにモータースポーツ活動を拡充していきます。ご存じのとおり、日産のモータースポーツ活動はフォーミュラE世界選手権（FE）と、SUPER GTが大きな二本柱です。FEは26年までの長期参戦を発表しているだけでなく、日本側としてさらに主体的な取り組みをしていくにあたり、ニスモの重要性が増していくと考えています。SUPER GTでは、Nissan Z GT500を走らせますが、レーシングカーを市販車に先行して走らせることは、我々の意欲の表れでもあるのです。カスタマーレーシングも、世界中のユーザー

に活躍してもらえるよう、これまで以上に様々な取り組みを進めていきます。

加えて、海外のマーケットでNISMOブランドの存在感を高めていきたいという狙いもあります。もちろん今までも海外展開をしていないわけではありませんが、それをさらに推進して、ブランドの価値を高めていきたいと考えています。

ですから、ファンの皆様やニスモ / オーテックのお客様にとっては、両社の相乗効果で新しいものが生まれていく様子を楽しみにしていただければと思います。これまでもずっとコラボレーションしていましたが、同じ会社になってそうした取り組みがさらに加速するわけですから、ポジティブなことと捉えていただきたいと思います。

2社の存在は日産にとって“宝” それを集約し、進化させていく

両社の統合について具体的に検討をスタートしたのは、発表の2年ほど前からです。もちろん私が着任する以前にもそういうプランは存在したかもしれませんが、今が取り組みを拡大していくのに最適なタイミングだと判断しました。

難波靖治さんがニスモを設立したのが1984年、櫻井眞一郎さんがオーテックを設立したのが86年です。近い時期に設立されたふたつの会社が、カリスマ性のある方々によって牽引され、時代に合わせて進化を続けてきました。多くの方々に支えられながら、35年以上の歴史を紡いできたわけです。日産自動車にとって、この両社が持つノウハウや人材は、まさに宝と言っていいものです。それを失わないよう、集約して進化させていくことも、今回の統合の目的のひとつです。

私はこれまで、ニスモとオーテック両方のCEOを務めてきました。この両社は、違うように見えて実はとても共通点が多いです。熱狂的なお客様に支えられている点や、それぞれの従業

員が豊富なノウハウや経験を持っている点、日産のグループの中でほかにもないものが結集されている点などです。

もちろん、モータースポーツを主体としたニスモ、クルマに付加価値をつけていくオーテックと、それぞれテーマの違いはあれど、その根底に流れる哲学と言いますか、職人気質などが非常に似ていると感じます。世界中の日産グループを見渡してみても、こういった属性を持つ組織は、このふたつしかありません。その組織がひとつになることで、お互いに学び合い、ポジティブな化学変化を起こしたいと考えています。

たとえば、専門性のあるプロがいて、そのプロが違う領域にも携わるようになれば、個人のスキルアップも含めて色々な可能性が広がっていくわけです。それは会社としての成長にもつながりますし、長い目でみれば、若い世代の従業員にとっても良いことだと考えています。こういう時代ですから、今までになかった新しいものが生まれる可能性にも期待しています。

最後になりますが、私としては、とにかくお客様に喜んでいただきたいという思いを持って今後も取り組んでいきます。私も従業員も日産が大好きで、日産車を持つワクワクした部分を、エキサイティングな方法でお客様にお伝えしたいと常日頃から思っています。それがレースをしたりクルマを作ったり、お客様に喜んでいただける活動につながっているのです。

今回のニスモ / オーテックの統合を機に、日産車の楽しさを、より一層ポジティブなカタチで多くの方々に伝えられたらいいと思いますし、なんといっても熱狂的なファンの皆様あってこそニスモ / オーテックですから、これまで以上に愛される存在となるよう、従業員一同、一丸となって頑張ってまいります。今後とも応援のほど、よろしくお願いたします。

ニスモ/オーテックという両社の相乗効果で 新しいものが生まれていく様子を 楽しみにしていただければと思います

2013年、現在の横浜市鶴見区に移転したニスモ本社。今後も変わらず、モータースポーツの情報発信基地であり続ける。





2022 MOTORSPORTS PROGRAMS

日産/ニスモ、2022年モータースポーツ活動概要を発表

フォーミュラEとSUPER GTを中心にワクワクを届ける活動を

2月18日、日産自動車とニッサン・モータースポーツ・インターナショナルは2022年のモータースポーツ活動概要を発表し、翌々日の2月20日に「日産モータースポーツファンイベント」を開催した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため無観客とし、オンラインで行われたイベントに先立って、昨年末亡くなった鈴木豊監督への哀悼の意が捧げられた。

イベント冒頭では、日産のアシュワニ・グプタCOOが登場し、日本語を交えながら22年シーズンに向けた意気込みが語られた。

「日産は、熱い情熱と高度な専門技術、そして積み重ねた経験を活かし、モータースポーツへ挑戦し続けています。日産がワクワクとスピードを追



リモートで登場したアシュワニ・グプタCOOに続き、ステージに登壇した片桐隆夫CEOが、参戦カテゴリーに関する説明を行った。

求するのは、『他がやらないことをやる』、という創業以来のチャレンジ精神があるからです。

日産は、人々の暮らしをより豊かにしていきたいという熱い情熱を胸に、より速く、より安全で、そして楽しいクルマを今後も数多く提供していきます。そして、この情熱こそが、私たちがモータースポーツへと向かわせているのです。今後もSUPER GTやフォーミュラEをはじめとするモータースポーツ活動を通じて、より多くのワクワクを提供していきます」

続いて登壇したニスモの片桐隆夫CEOは、22年シーズンの具体的なモータースポーツ活動を紹介し、「昨シーズンもファンの皆さんから熱い応援をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。私たちは22年シーズンもフォーミュラEとSUPER GTを2本柱として活動を続けていきます。フォーミュラEはレースカーとロードカーで知識や技術を共有することで、お客様によりよい電気自動車をお届けすることを目指します。SUPER GTでは、新型Zが市販モデルのデビューと同時にGT500へと投入されます。そしてNISMO Festivalについては、今年こそ開催したいと考えています。私たちは『Race to Win』の精神で、いかなる時にも決して諦めることなく、常に勝利を目指してチャレンジしてまいります」



「SUPER GT GT500トークショー」に続き、松田次生、千代勝正、高星明誠による「Formula Eトークショー」が開催された。

と、力強く語った。

その後、日産e.damsチームのセバスチャン・ブエミとマキシミリアン・ギュンター、グローバルモータースポーツディレクターのトマソ・ヴォルベからのビデオレターを放映。体制発表後は、SUPER GT GT500チームの監督と選手による「SUPER GT GT500 トークショー」が行われ、続いてフォーミュラEのテスト&リザーブドライバーを務める高星明誠らによる「Formula E トークショー」や、フォーミュラEに関するクイズなどが出題され、イベントが終了した。

2022年日産モータースポーツファンイベントの様子は
こちらでチェック



ABB FIAフォーミュラE世界選手権

新加入のギュンターとブエミのコンビ

2022年もABB FIAフォーミュラE世界選手権に、日産e.damsから参戦する。日産は、ゼロエミッションで走る電気自動車の楽しさを世界中のカスタマーに提供するため、フォーミュラE世界選手権に挑戦しており、サーキットと公道を走るクルマの間で知識や技術を共有しより良い電気自動車を提供することを目指している。

4年目となるシーズン8は、現行のフォーミュラEレギュレーションで開催される最後のシーズンとなり、Gen2マシンをこれまで以上に高いパフォーマンスを発揮すべく開発。フリー走行の時間が短縮され、予選ではデュエル形式での直接対決が行われるなど、チームやドライバーが新たなフォーマットに挑むことで、ファンにとってはさらにエキサイティングなレース展開が期待されている。

ドライバーは、2018年から日産e.damsチームに在籍するセバスチャン・ブエミと、そのパートナーとして今シーズンからマキシミリアン・ギュンターが新たに加入。ドライバーズ選手権、チーム選手権での王座を目指して戦う。



現行マシン規定最後のシーズンとなるシーズン8、日産e.damsは新カラーリングを採用した車両を投入する。



経験豊富なセバスチャン・ブエミ（右）と、若手マキシミリアン・ギュンターという強力な組み合わせが実現。

SUPER GT GT500クラス

新開発のNissan Z GT500をいち早く投入

日産/ニスモは、日産ブランドの「挑戦するDNA」を象徴する新型スポーツカー、Nissan Zのグローバルローンチに合わせ、同車をベースにしたNissan Z GT500を開発し、SUPER GT GT500クラスに参戦する。最高峰のGTレースで勝利に向かって挑戦することで、日産ブランドが目指す、イノベーションを通じたワクワクする体験をさらに推し進めていくことになる。

4チームをまとめる総監督は、ニスモCOOの松村基宏が引き続き務める。また、ミハエル・クルムも引き続きエグゼクティブアドバイザーとしてチームとドライバーのサポートを行う。

SUPER GT GT500クラス チーム体制

No.	チーム	ドライバー
3	NDDP RACING	千代勝正／高星明誠
12	TEAM IMPUL	平峰一貴／ベルトラン・バゲット
23	NISMO	松田次生／ロニー・クインタレリ
24	KONDO RACING	佐々木大樹／平手晃平

カスタマーレーシングプログラム

①GT3プログラム等 GT300、S耐参戦チームを支援

22年シーズンは6台のNISSAN GT-R NISMO GT3が、SUPER GT GT300クラスに参戦。GT3 オフィシャルパートナーチームであるGAINERから2台、KONDO RACINGから1台のNISSAN GT-R NISMO GT3が参戦する。また、NILZZ Racing、RUNUP、BUSOU Drago CORSEもエントリーする。

スーパー耐久のST-Xクラスには、MP Racing、HELM MOTORSPORTS、GTNET MOTOR SPORTSからそれぞれ1台のNISSAN GT-R NISMO GT3が参戦。ST-3クラスには、OKABEJIDOSHA motorsport、FKS Team FUKUSHIMA、TEAM ZEROONEからFAIRLADY Z NISMO RCが参戦を予定している。

②エンジンサブライブプログラム VK56エンジンをカスタマーチームに供給

日産/ニスモは、「VK56」エンジンをカスタマーチームに供給し、技術支援を行う。同エンジンは、北米ではデイトナ24時間を含む、IMSA ウェザーテックススポーツカー選手権、IMSA プロトタイプチャレンジ、欧州ではヨーロピアン・ルマン・シ

SUPER GT GT300クラス オフィシャルパートナーチーム チーム体制

No.	チーム	ドライバー
10	GAINER	富田竜一郎／大草りき／塩津佑介
11	GAINER	安田裕信／石川京侍
56	リアライズ 日産メカニックチャレンジ GT-R	藤波 清斗／ジョアオ・パオロ・デオリベラ

日産自動車と日産自動車大学校は、レース活動を通じた人材育成プログラム「NISSAN MECHANIC CHALLENGE」を今シーズンも引き続き実施。参加する日産自動車大学校の学生や販売会社のテクニカルスタッフの経験値をさらに深めるため、今年はGT300に加え、新たにスーパー耐久シリーズを追加し、「NISSAN MECHANIC CHALLENGE」のさらなる拡大に取り組んでいく。

リーズ、ミシュラン・ルマン・カップ、アルティメイト・カップ・シリーズ、ドイツ・プロトタイプ・カップ、そしてUAEで開催されるアジア・ルマン・シリーズなど、世界各地で開催される全てのLMP3クラスに出場するチームへ供給する。

その他の活動

NISMOドライビングアカデミーを今年も開催

NISMOドライビングアカデミーは、ロードカーユーザーとモータースポーツをつなぐ活動として、NISMOロードカーやNISSAN GT-R、フェアレディZのユーザーを対象として2016年から開催。多くのカスタマーの参加実績があり、好評を得てきた。今年度もミハエル・クルムが校長、ニスモ契約ドライバーが講師を務め、日本各地のサーキットでの開催を予定している。

また、ファン感謝イベント「NISMO Festival」の開催に向けて、準備を進めていく（日程は決定次第発表）。

